

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「お嬢さま家政婦」

テーマ：「大富豪のお嬢さまなのに、家事が得意な美少女」

キャラクター

55

ストーリー

45

テーマ(設定)

50

文章力

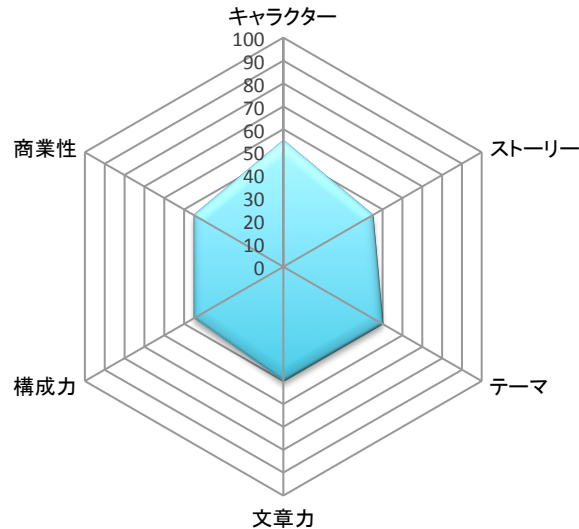
50

構成力

45

商業性

45



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・心と雰囲気は終始一貫しており、非常に安心して読み進めることができた。ただ母親の死といった設定は少しとってつけた感があり、作品の雰囲気と衝突を起こしているかもしれない。死というテーマが作品にプラスに働いて来るのはほぼ「感動もの」だけであるので、どうせとってつけた感を読み手に感じさせてしまうなら「マダガスカル諸島に期限未定の単身赴任」突然世界一周がしたいと消えていった「遠洋漁業に行った」など、少し笑いをとるくらいにした方が作風が明るくなってよかったかもしれない。

・キャラクターの内面を掘り下げるのが非常にうまいと感じた。特にララから感じられる母親のような包容力と、それに影響されて少しずつ成長の兆しを見せる隆太の変化は読んでいて心に沁みるものがあった。強いて問題点をあげるとその土台となる設定が説明的すぎる(例えば「ララの家の家政婦をしていた僕の母さんは色々聞いていたらしい。」のところが等)ので、このような設定を地の文ではなく、うまく会話の中で出していくといった小手先のテクニック等も身につければ良いのかなと思う。

・ライトノベル的には起承転結がなさ過ぎて「起承転結をつけてください」と言うべきなのではあるが、恐らく作者様は女性かつ社会人?と思われるので、起承転結を分かり易く出すというよりも有川浩のような淡い空気感でさりげないストーリーを演出することを意識する方が執筆力が向上するのではないかなと思われる。

合計加点ポイント 0

総得点: 290 / 600

B方式総合得点: 14017 点